

第 44 回 小山市バス交通整備検討委員会 議事要旨

■開催の概要

1. 日 時：2017. 5. 17（水） 14:00～15:30
2. 会 場：小山市役所 3 階 大会議室
出席者：永井委員長、篠崎副委員長
高橋、山口（忠）、柿崎、佐藤、片柳、菊池、関口（栗田委員代理）、
山口（裕）（益子委員代理） （以上 計 10 名）
3. 議 題：（1）平成 28 年度運行状況について
（2）小山市生活交通確保維持改善計画について
（3）高岳線、城東中久喜線の利用者増に伴う車両大型化について
（4）大谷中央線、土塔平成通り線の利用者に伴う車両大型化及び路線再編について
（5）間々田東西線の路線再編について
（6）羽川線のダイヤ変更について
（7）その他
4. 報告事項：（1）おーバスまつりの開催について
（2）市民病院線の路線再編について
（3）その他

■議事要旨

●開会・挨拶等

- ・事務局から、新委員委嘱状交付と紹介があった。
- ・今年度より庁内の組織改編があり、コミュニティバス担当が「市民生活部生活安心課」から、「都市整備部都市計画課」へ所管替えとなった報告がされ、以下の通り自己紹介があった。

●議 題

（1）平成 28 年度運行状況について

資料 1 に基づき、事務局より説明があり、質疑応答は特になく、了承された。

[主な質疑応答]

特になし。

（2）小山市生活交通確保維持改善計画について

資料 2 に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

[主な質疑応答]

（委 員）資料 P13 にある目標はどのように決めたものか？

→（事 務 局）3 ヶ年のローリングで目標値の見直しをしており、今回は平成 32 年度までの目標である。毎年 9 月 30 日までの 1 年間の運行状況を確認し時点修正するので目標値が変更となる可能性がある。また、概ね実績値の数値に 10% プラスして設定している。

（委 員）各路線の収支率と、利用者数の目標との整合は取れているか？

→（事 務 局）整合は取れていないので、整合性を図り修正する。

（委 員）目標を達成するために行うことは何か？

→（事 務 局）通常行っている PR のほかに、今年度は「羽川線」のダイヤ見直しや、バス利用者の要望に応えること等、今回議題としている内容の変更・再編を行う予定である。

(3) 高岳線、城東中久喜線の利用者増に伴う新規車両導入について

資料3に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

- 高岳線に新規大型車両（定員 62 人）を導入する。
- 城東中久喜線は定員 34 人→59 人（高岳線で使用していた車両）に変更する。
- 大谷中央線は定員 27 人→34 人（城東中久喜線で使用していた車両）に変更する。
- 土塔平成通り線は定員 13 人→27 人（大谷中央線で使用していた車両）に変更する。
- これらの変更により、以上の各路線の車両が大型化されることとなる。

[主な質疑応答]

（委員）(3) のタイトル中「車両大型化」ではわかりづらいので、「新規車両の導入」としてほしい。

→（事務局）わかりました。訂正致します。

（委員）趣旨説明の文章中「小型低床バス（定員 59 人）」とあるが、定員 59 人は「大型低床バス」ではないのか？

→（事務局）ご指摘の通りです。訂正致します。

（佐藤委員）資料中、「土塔平成通り線」の文字の下に「デマンドバス車両 13 人乗り」と記載してあるが、これはどういう意味か？

→（事務局）現在、13 人乗りの車両は、土塔平成通り線とデマンドバスにて兼用で使用しているが、変更後はデマンドバス専用になるということである。

(4) 大谷中央線、土塔平成通り線の利用者に伴う車両大型化及び路線再編について

資料4に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

- 乗り残しの発生や、増便要望があることから、現在のように交互に運行するのではなく、それぞれ独立した車両を設けて運行する。
- 「土塔平成通り線」の路線延伸を図り、「関東能開大前」まで行く路線とする。
- この議題について了承された場合、今後該当する車内でアンケートを取る予定である。

[主な質疑応答]

（委員）図中の赤線が延伸した路線となるか？「大谷中央線」のルートは変更無しか？

→（事務局）図中の赤線が「土塔平成通り線」の延伸したルートとなる。「大谷中央線」のルートは変更無しである。

（委員）「土塔平成通り線」の路線を延伸することで利用客が増加すると見込んでいるか？

→（事務局）現在当路線では、小山駅に向かう「上り」は利用客がいるが、「下り」は利用客がほとんどいない状態である。関東能開大や佐賀鉄工所、コマツユーティリティ等に行くための利用を見込んでいる。

（委員）路線を延伸した理由は、どこからの要望によるものか？

→（事務局）路線延伸要望があったのは、関東能開大からである。尚、延伸部分の工業団地内でもバス停オーナー及びサポーターとして協力していただくよう交渉していく。

（委員）この路線再編により、小山駅からの利用客、需要はどのくらいを見込んでいるか？

→（事務局）コマツ製作所においては自社バスがあり、通勤需要はあまり見込めないと思っているが、工業団地等に営業に行く方の移動手段が、今までタクシーであったものを、おーバスにしていだける見込みがあると思っている。

（委員）それぞれ独立した車両の路線となったことから、「土塔平成通り線」の路線延伸を図ったと解釈している。車両や便数が増えたことで、経費が今まで以上に掛かるので、より利便性が向上し収支率が向上するよう運行状況を慎重に調べた方がよいと思う。

(5) 間々田東西線の路線再編について

資料5に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

○以下の項目の路線再編を図る。

- ①しらさぎ館ルートへの復活に伴う路線再編
- ②以上の路線再編に伴うバス停の増設及び現路線のバス停増設[美しが丘整骨院、西黒田下、美しが丘1丁目(第二くわの実)、五料(右折し市民病院へ向う側)、間々田小前、しらさぎ館]
- ③増便(光南病院への便、最終便、小山南高校から間々田駅東口)
- ④ダイヤ調整(光南病院においての間々田便との乗り継ぎ調整)

[主な質疑応答]

(委員) 資料2で、この路線は収支率の目標を10%プラスとしていたが、路線再編で一番期待される効果は何か?

→(事務局) 資料中、「1. 光南病院への増便及び間々田線と乗り継ぎ調整」を図ることで、利用客が増えると期待している。

→(委員) しらさぎ館でいきいきふれあい事業を行っていることもあり、しらさぎ館への運行要望は、何件か出ている。また、その開始時間(10:00)に間に合う運行ダイヤとなっているので、ある程度の利用者の増加は見込めると思う。

→(委員) 光南病院の隣に新しく老人福祉施設が間もなくできることから、高齢者の利用が期待される。また、しらさぎ館への運行要望は、切なる要望であったと聞き及んでいるので、一定程度バス利用客が見込まれると思う。

(6) 羽川線のダイヤ変更について

資料6に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

○実証運行の結果、路線延長に伴いダイヤがきつい部分が判明したため、ダイヤ変更を図る。

[主な質疑応答]

(委員) 当路線バスを利用しているからわかるが、羽川線の運行が遅れることが度々あり、バスが停留所に待機する時間的余裕が無い現状がある。

→(事務局) 運行時刻変更により、運行ダイヤに若干余裕を持たせ、概ね1時間半に1本くらいの間隔で運行する。

(7) その他

(1)～(6)までを総括して、質疑応答を行った。

[主な質疑応答]

(委員) 高岳線、城東中久喜線の新規車両導入については、どの事業者に関連するか?

→(事務局) 大山タクシーが運行している路線の再編になる。尚、小山市のコミュニティバス事業者は、大山タクシー、友井タクシー、小山中央観光バス、関東自動車(自主運行)となっている。

(委員) バスの諸費用は運行事業者が負担しているのか?

→(事務局) 車両費は半分を市が補助しており、事業者が半分負担している。運行費については現在、事業者負担であるが、事業者から補助額を増やしてほしいとの要望があるので検討している。

(委員長) 事業者との契約については、事業者負担が無いような構成となっているか?

→(委員) 事業者は、バス車両のリース契約が減価償却できる期間で契約することとなり、事業者負担が無いように考慮されている。

(委員) 平成28年度の収支の中では、市の負担が年間約1億2千万円ということであり、基本的に収入から運行経費を差し引いて計算していると思うが、そのほかに、国の補助や、交付税措置を含めた実質的な市の負担はどのくらいか?

- (事務) 交付税については不明である。国からの補助は、平成 28 年度は 1,268.4 万円であり、年間約 1 億 2 千万円の運行補助の中から国の補助を引いた残りが小山市負担となる。
コミュニティバスの実質の経費は市の財政に報告しており、今年度の収支等に加算されている。
- (委員) 以前は小山市で交付税をもらっており、市の実質負担は計 5 千万円位で済んでいたもので、効率のよいコミュニティバス運行をしていた。また、栃木県内ではしっかりしていた方だと思う。交付税の申請をし、取得した方がよいと思う。
- (委員) 今後のコミュニティバスの PR 戦略に活かすためにも、交付税について勉強した方がよいと思う。

4. 報告事項

(1) おーバスまつりの開催について

(2) 市民病院線の路線再編について

資料に基づき、事務局より説明があり、質疑応答の後、了承された。

[主な質疑応答]

- (委員) ある高齢者から、バスの運転手の横柄な態度に困惑しているという話を聞いた。また、バスの利用が分かりづらいとの意見があるので、高齢者にとって分かりやすく優しい公共交通であってほしいと思う。
摩利支天塚古墳付近に新しい施設が 10 月にオープンすることから、羽川線において小金井駅西口から摩利支天塚古墳や尼寺を經由するルートがあってもよいと思うので、検討していただきたい。
- (事務) コミュニティバスの利用方法については、出張出前講座に我々を呼んでいただき説明させていただきたい。
路線のルート変更については、まずはデマンドバスの利用を考えてもらい、その利用状況を把握した上で、路線バスのルートに組み込むことが可能かどうか検討したい。

(3) その他

- PC、スマートフォン、携帯端末等から、おーバスの時刻表や乗継案内が「ジョルダン」と「ナビタイム」で見ることができるので是非ご利用いただきたい。尚、ジョルダンの方が若干見やすい構成となっている。
- 生活安心課管轄の安全安心情報メールでは、気象・災害情報、交通安全情報等のほかに、おーバス運行情報を受信することができるので、是非ご利用いただきたい。尚、おーバスの遅延情報については、15 分以上遅れた場合に発信される仕組みとなっている。

[主な質疑応答]

- (委員) 安全安心情報メールを使用しているが、おーバスの情報が入ってこない。どうすればよいか？
- (事務) 希望する配信内容を選択する画面において、おーバス情報にチェックが入ってないと思われる。変更登録をしていただければよいと思う。
- (委員) ジョルダン等で乗継案内が利用できるようになったのは、小山市の方から打診を行い、交渉したということか？
- (事務) 当時、庁内でオープンデータの利活用があまり進んでいなかった中で、IT 推進課から業者推薦があり、そのサービスが利用できるようになった。
- (委員) 外国人旅行者を対象にしたオープンデータの利活用は国の方でも推進しているので、他の市でもそういうサービスが広がればよいと思う。
- (委員) 運転手の態度が横柄だという問題については、利用客がバスに乗りたくないという感情を持ってしまうので、対応策を考えてほしい。
- (事務局) わかりました。

(以上)